kanagawajugyounotane

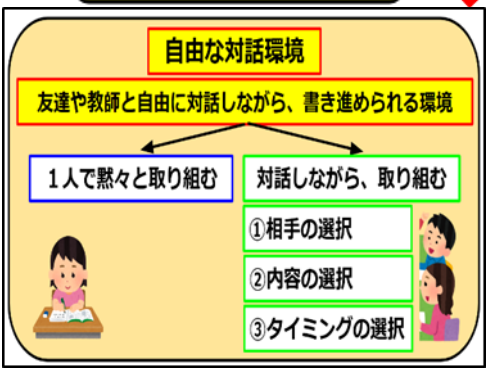
| 小学校 | 国語 | 中・高学年 |
|---|---|---|

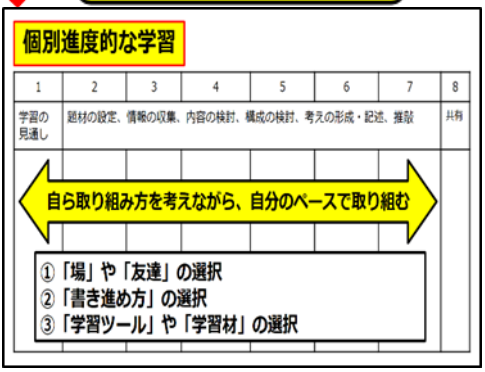
**粘り強く文章を「書き進める」力の育成を目指す国語科授業づくり**

～「自由な対話環境をベースとした個別進度的な学習デザイン」を通して～

## 【自由な対話環境をベースとした個別進度的な学習デザインとは】

**自由な対話環境** × **個別進度的な学習**




「自由な対話環境」とは、教師が決めたグループや時間設定ではなく、学習者が自分の判断で、相手や内容、タイミングを選択して、相談や交流ができる対話環境のことです。

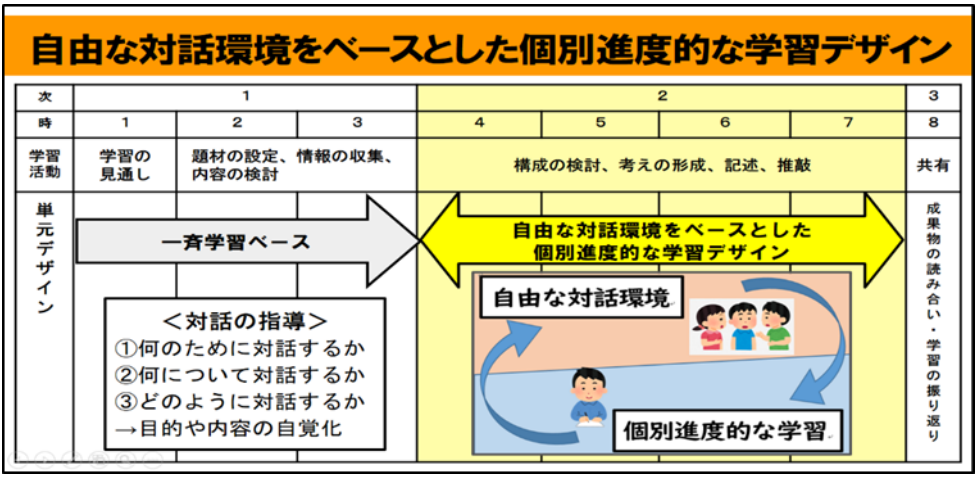
学習者は、自分が必要と感じた際に、近くの席の友達に相談したり、教室内を自由に動いて交流したりします。一人で取り組んでも、よいこととしています。

「個別進度的な学習」とは、自分の見通しや計画に沿って、自分のペースで取り組むことができる学習です。

教師が毎時間のめあてを設定し、一律に進めるのではなく、学習者が配当時間と課題を確かめ、数時間の見通しや計画を立てて取り組みます。学習の苦手な子は「できるところから」、得意な子は「自分の計画で」取り組むことができます。

学習者の実態に合わせて、学習者に委ねる時間数を調整し、「自由な対話環境」と「個別進度的な学習」を組み合わせて、単元をデザインします。
これを「自由な対話環境をベースとした個別進度的な学習デザイン」としました。

## 【単元指導計画の例】




実践例では、単元前半で対話の指導をし、単元後半に「自由な対話環境をベースとした個別進度的な学習デザイン」を位置づけました。

単元前半は、①単元の見通しや学習計画を確かめる、②題材について情報を集める、③モデル文を通して文章の内容や構成を確かめることを、一斉学習の形態で進めました。

単元後半は、毎時間、学習者が取り組み方の目標を立て、自分の必要に応じて補助教材や学習ツール、対話環境を活用しながら書き進められるようにしました。

教師は、学習者が取り組んでいる様子を見て回り、一人ひとりに必要な声掛けや指導をこまめにしていきます。

## 【教師の役割】

### （１）対話の指導

学習者が対話環境を有効に活用できるように、対話の目的や相手を意識づけしていきます。

①目的意識

アイデア、助言、どのような内容の意見が欲しいのか、どんな困りを解消したいか。

②相手意識

自分の困りを解消するためにふさわしい相手は誰なのか。

この意識をもって対話に臨めるよう、教師が説明したり、実際の対話のやりとりを価値付けたりして、効果的な対話になるよう支援をします。

### （２）ファシリテート

学習者が自分のペースで取り組んでいる際は、教師は進捗状況の見取りと机間指導にあたります。

- 相談や交流の仕方を例示して教える。
- 個別に具体的な助言や指示をする。
- 適宜、よい対話の姿を取り上げ、価値付けたり意味付けたりする。
- 同じ悩みを持つ学習者同士を繋げたり、見回ってみるよう声をかけたりする。

など、対話環境を有効に活用できるような支援をします。

詳細は、総合教育センターWebサイト 長期研究員 研究報告（R6）をご覧ください。